

## 里山資源を地域の宝とするために……。

「里山には、お金で買えない豊かさがある。」

三島地域には、日本の原風景といわれる里山が広がっており、その面積は、地域全体の約 60% を占めております。しかし、近年は社会環境の変化により里山の荒廃が進んでいます。

里山は、整備し保全してこそ『資源』として活用でき、防災・減災の機能の回復のみならず、交流の場としての拠点づくりへとつながっていきます。

### 里山資源の整備・保全と教育

地域内では、里山資源である竹林や希少なブナ林を活かしながら地域の魅力づくりやコミュニティ、子ども達の郷土愛醸成への取り組みを整備活動や保全活動を通して行っている団体があり、その活動が、人と人の繋がりを深めて地域の防災力向上にも寄与しています。

また、小中学校では、三島地域の魅力について総合的な学習やイベント等の様々な取り組みで、地域の里山保全などに積極的に参加し、学ぶ機会をつくっています。みしま西山連峰登山マラソン大会、全日本丸太早切り選手権大会、越後みしま竹あかり街道、上岩井のブナ林（コンサート）、蓮花寺の大杉、鳥越の学校林などが「交流と学びの場」として活用されています。

このような取り組みを推進することが、地域の活性化に向け重要だと考えます。

### 里山資源のエネルギーとしての活用

里山としての健全性回帰の取り組みは、森林整備のための間伐材や竹等の端材を利用した薪や燃料ペレットの活用、農業用ハウス等への暖房利用による冬季間の野菜や園芸等の栽培への取り組みなど、里山再生エネルギーによる循環型社会の構築に向け、今後も研究していく課題だと思います。

また、森林組合等と連携し、燃料ペレットの製造やバイオマス発電導入の検討など、新たな産業の立ち上げ、雇用の創出、地域の特性に合わせた付加価値のある農林産物の植栽や加工など、山林から維持管理費用が捻出できるような取り組みに繋がればと思います。

それには、里山を取り巻く地域の現状や問題点等を把握するため、地域ごとの懇談会等の開催や地域の課題研究、里山整備のためのNPO等「受け皿組織」の結成が必要と考えます。

### 里山資源を活かした循環型地域コミュニティ

里山資源を活用したコミュニティの場の提供により、新たな地域内外の交流ができるとともに、循環型地域コミュニティの促進、付加価値のある農林産物や加工品の製造・販売による多様な農作物の生産、直売所開設、特産品の開発等が期待できます。

以上のことから、里山を整備することで里山が「三島の宝」となり、地域へのさまざまな還元は大きいものと考えられます。この整備活動が進み、里山が持つ本来の機能が保全された後は、山間地の土砂災害や市街地の雨水災害などの発生を最小限に食い止めることができ、より安心で安全な住みよい街になると思います。